

漁海況年報

令和3年1月1日～令和3年12月31日

【黒潮流路】

図1に黒潮流型の区分を、表1に直近20年の半月毎の流型を示した。また、図2には令和3年1～12月における月の前・後半の代表的な黒潮流路を示した。

令和3年の黒潮流路は、平成29年9月に発生したA型が継続し、3月中旬～4月上旬、5月上旬にかけて八丈島の南を通過する非典型的流路となったが、年を通じてA型で推移した。

静岡県水産・海洋技術研究所
(電話 054-627-1815)

静岡県水産・海洋技術研究所伊豆分場
(電話 0558-22-0835)

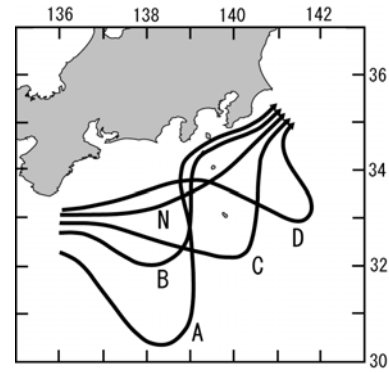


図1 黒潮流型の区分
(海上保安庁海洋情報部HPより)

表1 黒潮流型の経過

年	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
H14年	N	N	N	N	N	NB	N	N	N	N	N	N
H15年	N	N	N	N	D	NW	WN	B	BC	D	N	N
H16年	N	N	N	N	N	N	N	N	N	N	A	A
H17年	A	A	A	A	A	A	A	A	C	C	C	C
H18年	N	N	N	NB	C	C	C	N	N	N	N	N
H19年	N	BC	D	B	B	C	C	C	C	N	B	C
H20年	C	C	N	N	N	N	B	B	C	C	C	C
H21年	C	C	C	C	C	C	WB	C	C	C	C	C
H22年	D	DN	N	BC	N	N	W	C	CD	D	N	N
H23年	N	N	N	B	B	C	C	DW	N	BC	C	DN
H24年	N	N	N	B	C	C	C	N	B	C	C	DN
H25年	CW	ND	D	DN	N	N	NB	B	BC	C	C	W
H26年	C	C	C	C	W	C	BC	N	N	BC	N	N
H27年	N	BC	C	W	WB	C	C	C	CD	DC	DN	N
H28年	C	CN	N	N	NB	BC	C	C	C	C	CB	BN
H29年	B	BC	C	C	B	C	C	CD	DW	W	B	C
H30年	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
R元年	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
R2年	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	AB	NA
R3年	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A

資料：海洋速報（海上保安庁）、関東・東海海況速報
*静岡県水産・海洋技術研究所一部改変

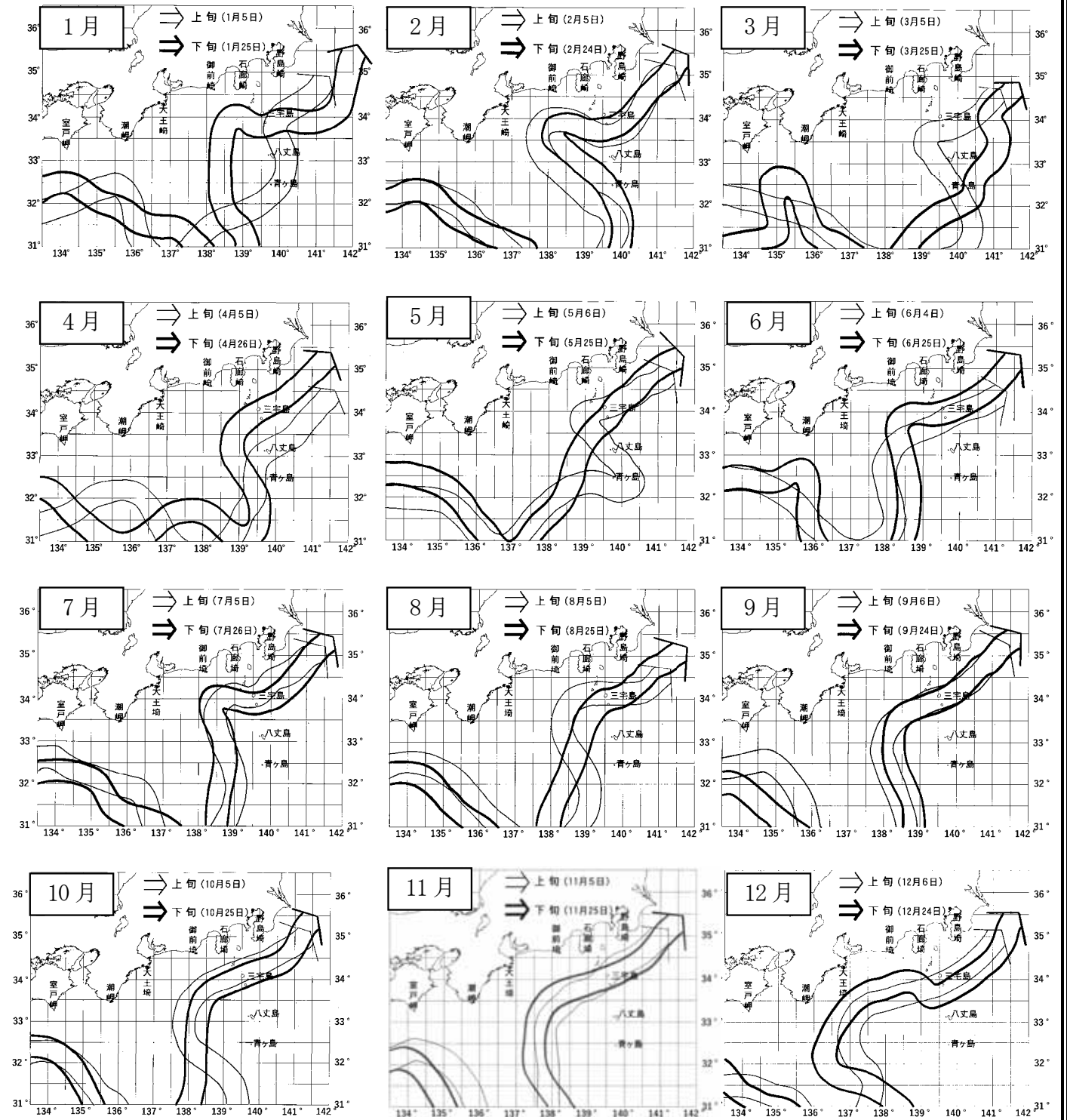


図2 令和3年の月別黒潮経路 (⇒上旬 ⇒下旬 関東・東海海況速報より)

[県下沿岸域]

図3に令和3年1～12月における旬別の沿岸平均水温を示した。

令和3年の県下沿岸水温は、伊豆東岸（伊東・稲取・下田）、駿河湾（雲見・沼津・焼津）で「やや低め」～「高め」で推移した。

月毎の測点別の沿岸水温は、次のとおりであった。

- 1月は稲取で「平年並」、その他の側点で「やや高め」であった。
- 2月は稲取、下田、沼津で「やや高め」、伊東、雲見、焼津で「高め」であった。
- 3月は全測点で「高め」であった。
- 4月は下田、雲見、沼津、焼津で「やや高め」、伊東、稲取で「高め」であった。
- 5月は下田、雲見、焼津で「平年並」、伊東、稲取、沼津で「やや高め」であった。
- 6月は伊東、下田、雲見、沼津、焼津で「やや高め」、稲取で「高め」であった。
- 7月は伊東で「やや高め」、その他の測点で「高め」であった。
- 8月は伊東、稲取、下田で「やや高め」、雲見、沼津、焼津で「高め」であった。
- 9月は伊東で「平年並」、下田、雲見、沼津、焼津で「やや高め」、稲取で「高め」であった。
- 10月は伊東で「平年並」、稲取、下田、沼津、焼津で「やや高め」、雲見で「高め」であった。
- 11月は伊東、下田、沼津で「平年並」、稲取、雲見、焼津で「やや高め」であった。
- 12月は伊東、下田で「やや低め」、稲取、雲見、沼津、焼津で「平年並」であった。

水温
()

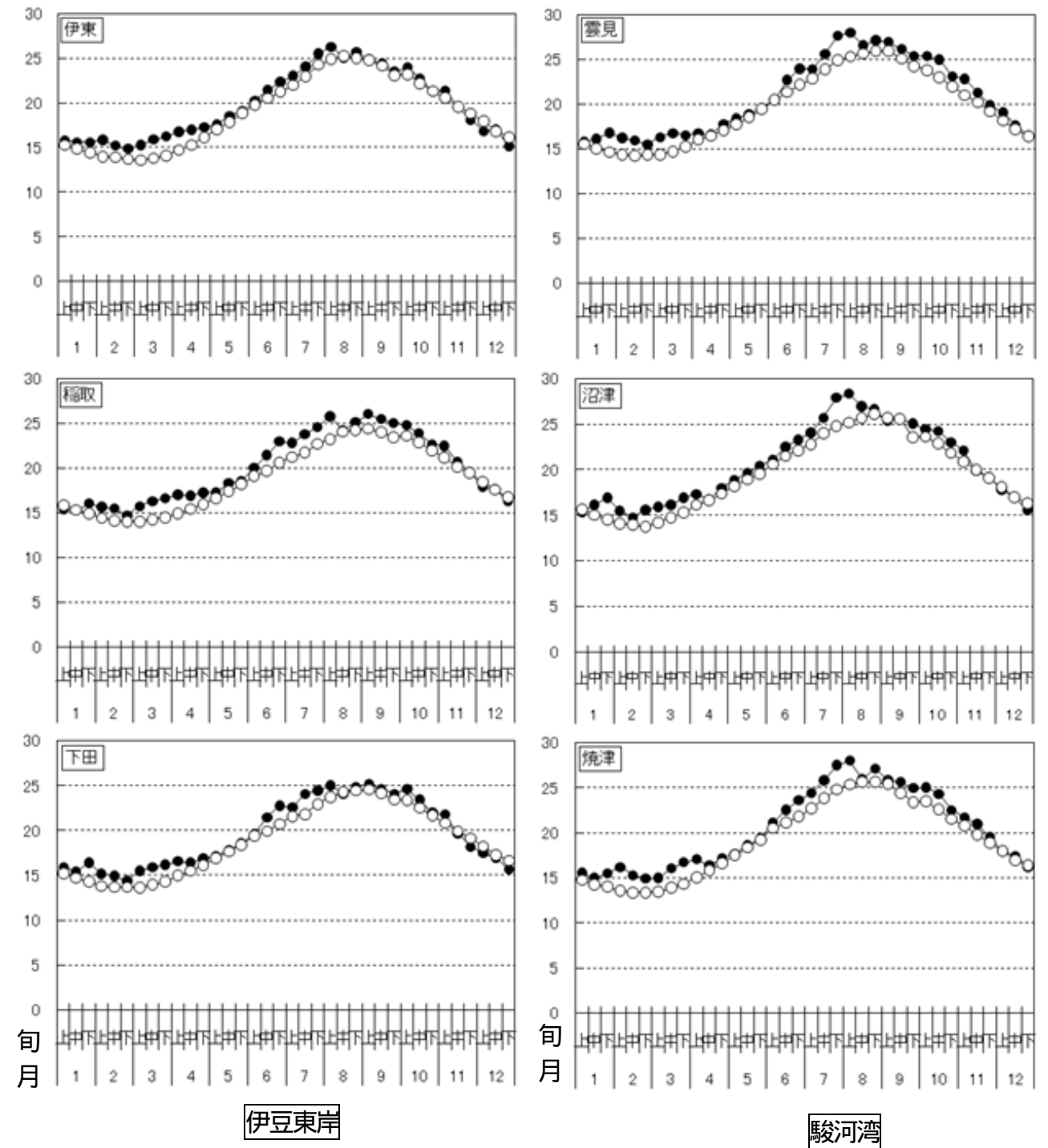


図3 令和3年1～12月の旬別沿岸水温 (: 令和3年値 : 平年値)
 なお、地頭方の水温観測は平成28年3月で終了しました。
 2021年10月以降の平年値：1990-2020年の30年平均値

[サバたもすくい棒受網]

1 たもすくい(令和3年1~6月、10~12月)

静岡県船のたもすくいの操業は、1月7日から伊豆諸島北部海域(以下北部海域)の大島千波でゴマサバ主体に行われた。1月末(31日晩)には、漁場水温19℃台の北部海域の大室出しで千葉、静岡の各県民間船がマサバ主体の操業を行い、今漁期のマサバの初漁日となった。その後、漁場は再び北部海域の大島千波に形成され2月中旬まで主漁場となった。2月下旬に北部海域の大島千波の水温が16℃台に低下すると、水温18℃台の利島周辺に漁場が形成されたが、下旬には水温が17℃台に低下し漁況は低調となった。3月になると、黒潮縁辺部となった銭洲周辺海域に漁場が形成された。同海域は4月上旬まで漁場となったが、3月中旬以降はゴマサバの割合が増加し、4月上旬にはゴマサバ主体の操業となった。4月中旬以降は、一時的に三宅島周辺海域に漁場が形成された後、ひょうたん瀬および高瀬で再びマサバ主体の操業となった。

5月は水温20℃台の北部海域の利島周辺に漁場形成され、マサバの大型魚主体で今漁期一番の好漁となった。6月は引き続き利島周辺に漁場が形成されたが、中旬以降は同海域の水温が24℃台に上昇し、マサバの漁況が低調となったため、9月末まで棒受網へ転向した。

10月上旬に利島周辺にゴマサバ主体の漁場が形成されると、再び全船がたもすくいへ転向した。当海域での操業は、11月上旬まで継続し、漁況が低調になると、中旬以降は大島千波へ移った。その後同海域での操業が12月下旬まで継続した後、今期のたもすくい操業は終漁となった。

令和3年1~6月の千葉、静岡2県主要5港^{※1}における水揚量は、マサバが3,131トンで前年(4,189トン)を大きく下回り、ゴマサバが1,766トンで前年(1,135トン)を大きく上回った(図4)。また、静岡県船の1~6月のマサバCPUE(1隻1夜)は13.5トンで前年(18.7トン)を大きく下回った。

※1 千葉県:千倉・富浦、静岡県:伊東・沼津・小川の7港。

2 棒受網(令和3年6月~10月)

令和3年は2月まで北部海域の大島千波で漁場が形成されたことから、全船がたもすくい漁業を行った。また2月中旬から4月下旬にかけてはマサバを主対象としたのたもすくい漁業を行っていたことから、今漁期の棒受網漁業は4月27日夜が初漁であった。漁場は北部海域の高瀬に形成され、その後5月中旬までゴマサバ主体の棒受網操業が続いたが、北部海域の利島にマサバ主体の漁場が形成されると、再び全船がたもすくい漁業へと転向した。6月下旬になると、マサバ漁況が低調となったため全船が棒受網漁業へと転向した。漁場は8月末まで北部海域のひょうたん瀬に形成され、8月上旬に漁況が好調であったが、その他の期間は概ね低調に推移した。9月には北部海域の大室出しに漁場が形成されたが、漁況は引き続き低調であった。10月上旬になると、北部海域の利島周辺に漁場が形成されたことを受け、全船がたもすくいへと転向し、今期の棒受網操業は終漁となった。

令和3年の静岡県主要4港^{※2}の水揚量は、マサバが60.0トンで前年(2.9トン)を大きく上回り、ゴマサバが343.6トンで前年(1,196トン)を大きく下回った(図5)。また、ゴマサバCPUE(1夜1隻)は8.2トンで、前年(10.4トン)を下回った。

棒受網で漁獲されたゴマサバにおける年齢別漁獲尾数の割合は、0歳魚(2021年級群)が6.0%、1歳魚(2020年級群)が53.3%、2歳魚(2019年級群)が15.7%、3歳魚(2018年級群)が18.2%、4歳魚(2017年級群)以上が6.8%であり、1歳魚が漁獲の主体であった。

※2 伊東・静浦・沼津・小川の4港。

3 小川魚市場におけるさば類単価(表2)

令和3年の小川魚市場におけるたもすくい・棒受網のさば類月別単価は、マサバが61~203円/kg(1~6月、12月)、ゴマサバが66~155円/kgであった。近年マサバの単価は、水揚量の増加と魚体の小型化により低調に推移している。また、ゴマサバの単価は、水揚量の減少に伴い高値で推移している

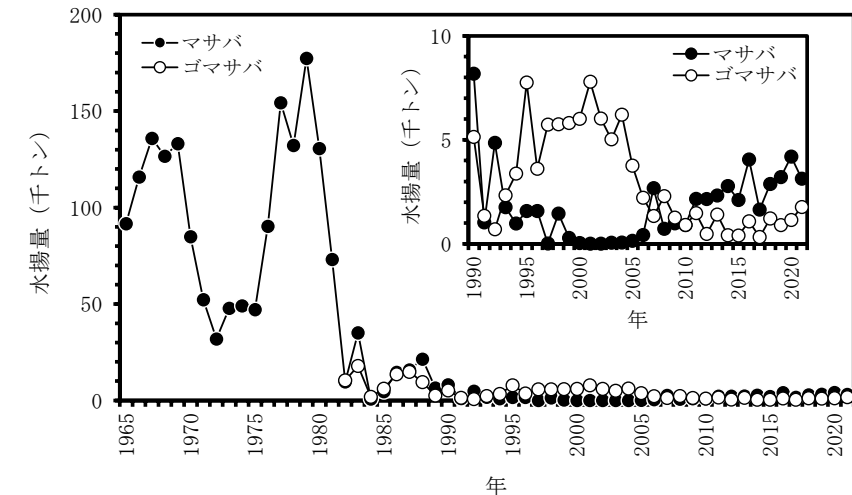


図4 たもすくいによる2県主要5港でのマサバ・ゴマサバ水揚量の経年変化(1~6月)(東日本さば釣漁業協会資料)

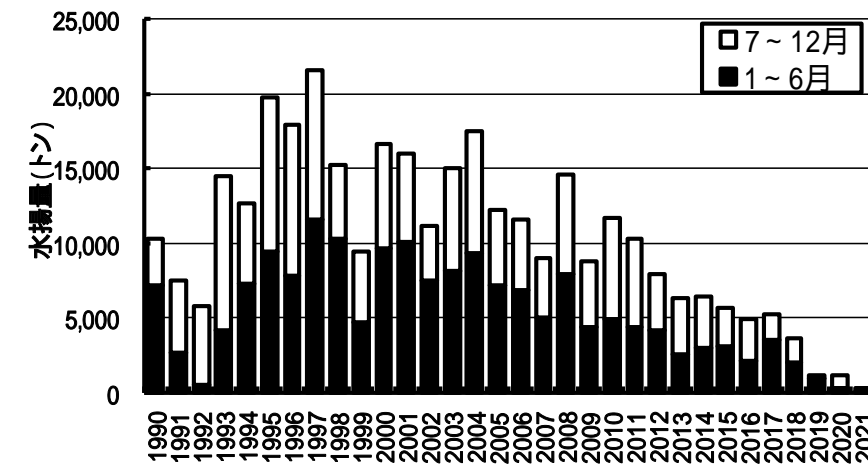


図5 棒受網によるゴマサバ水揚量の経年変化(静岡県主要4港)
*2009年以前はたもすくいによる水揚げも含む

表2 小川魚市場(焼津市)における棒受網・たもすくいのさば類月別単価

単位: 円/kg

年	魚種	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
2017年	マサバ	279	145	158	108	72	204	-	-	-	-	-	-
	ゴマサバ	111	113	117	90	91	93	79	92	79	85	89	135
2018年	マサバ	137	109	107	122	99	227	-	-	-	-	-	-
	ゴマサバ	121	136	110	103	98	93	93	98	109	121	102	106
2019年	マサバ	128	121	110	88.6	81	177	-	-	-	-	-	-
	ゴマサバ	118	119	117	99	85	84	123	88	540	128	128	130
2020年	マサバ	156	125	81	88	98	271	332	-	-	-	-	216
	ゴマサバ	121	120	128	116	112	138	134	122	100	121	102	102
2021年	マサバ	203	96	79	61	106	124	-	-	-	-	187	127
	ゴマサバ	114	111	82	66	108	103	123	121	155	131	138	124

[サクラエビ船曳網]

春漁は3月30日夜～6月1日夜にかけて操業が行われた。この春漁ではサクラエビの主産卵場である湾奥に試験操業のみ可能な保護区を設定する等の産卵エビの保護を目的とした自主規制が導入された。出漁日数は19日、漁獲量は140トンで、漁場は主に由比沖～駒越沖に形成された（前年の出漁日数は13日、漁獲量は26トン）。漁獲されたサクラエビは、平均体長35.4mm（前年は35.6mm）の0歳エビ（2020年生まれ）が主体であった（図6）。

秋漁は10月28日夜～12月23日夜にかけて操業が行われた。この秋漁では産卵後の1歳エビ（2020年生まれ）を漁獲の主体とし、2022年春に親となる0歳エビ（2021年生まれ）への漁獲圧を低減するため、海域ごとに異なる1歳エビの漁獲可能基準を設定した自主規制が導入された。出漁日数は17日、漁獲量は141トンで、漁場は主に大井川沖～相良沖に形成された（前年の出漁日数は14日、漁獲量は102トン）。漁獲されたサクラエビは、平均体長30.8mm（前年は31.8mm）の0歳エビと平均体長39.0mm（前年は39.2mm）の1歳エビの2群で構成された（図7）。

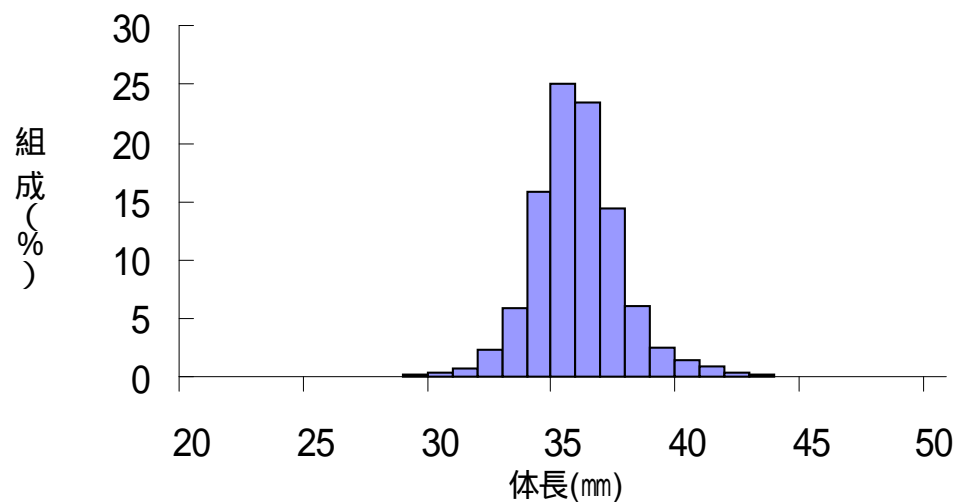


図6 令和3年春漁で漁獲されたサクラエビの体長組成

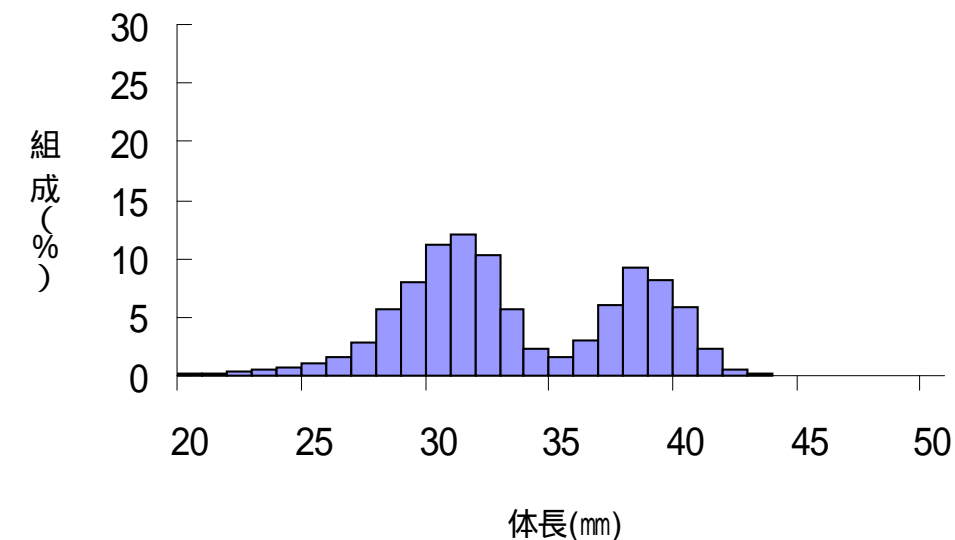


図7 令和3年秋漁で漁獲されたサクラエビの体長組成

[竿釣り近海カツオ]

1 水揚量と魚価

令和3年の静岡県主要5港（沼津、清水、焼津、小川、御前崎）における近海・沿岸竿釣り船の水揚量は1,143トンで、前年の858トンを上回り、過去5か年平均（997トン）の1.3倍であった（表3、図8）。

魚価は250円/kgで前年（518円/kg）及び過去5か年平均（398円/kg）を下回った（表3、図9）。

2 漁況（漁場形成と魚体）

御前崎港での魚体測定及び漁場聞き取り調査から、漁況はおおむね次のとおり推移した（表3）。

- 1月 水揚げなし
- 2月 近海竿釣り船の水揚げが始まり、伊豆諸島南部周辺海域で操業し、小（尾叉長46cmモード）カツオを主体に水揚げした。
- 3月 沿岸竿釣り船の水揚げが始まり、伊豆諸島南部周辺海域で操業し、小（尾叉長46cmモード）カツオを主体に水揚げした（近海竿釣り船の操業情報不明）
- 4月 沿岸竿釣り船が伊豆諸島南部周辺海域で、近海竿釣り船が伊豆諸島北部周辺海域や潮岬沖で操業し、小（尾叉長47cmモード）カツオを主体に水揚げした。
- 5月 沿岸、近海竿釣り船が伊豆諸島北部周辺海域で操業し、中（尾叉長55cmモード）カツオを主体に水揚げした。
- 6月 沿岸、近海竿釣り船が伊豆諸島北部周辺海域で操業し、小（尾叉長48cmモード）カツオを主体に水揚げした。
- 7月 沿岸、近海竿釣り船が伊豆諸島北部周辺海域で操業し、小（尾叉長48cmモード）カツオを主体に水揚げした。
- 8月 沿岸、近海竿釣り船が伊豆諸島北部周辺海域や御前崎沖で操業し、中（尾叉長56cmモード）カツオを主体に水揚げした。
- 9月 沿岸、近海竿釣り船が伊豆諸島北部周辺海域や御前崎沖で操業し、中（尾叉長56cmモード）カツオを主体に水揚げした。
- 10月 沿岸、近海竿釣り船が伊豆諸島北部周辺海域や御前崎沖で操業し、中（尾叉長52cmモード）カツオを主体に水揚げした。
- 11月 沿岸、近海竿釣り船が伊豆諸島北部周辺海域や御前崎沖で操業し、中（尾叉長54cmモード）カツオを主体に水揚げした。
- 12月 沿岸、近海竿釣り船が伊豆諸島北部周辺海域や御前崎沖で操業し、中（尾叉長51cmモード）カツオを主体に水揚げした。

表3 令和3年近海・沿岸竿釣り船のカツオ水揚量等(県内主要5港)

年月	水揚量(トン)	水揚隻数	水揚/隻(トン)	平均単価(円/kg)	主漁場と魚体 ()内は尾叉長モード、単位はcm
R3年1月	0	0	-	-	-
2月	4	1	4.1	402	伊豆諸島南部周辺海域(46)
3月	33	12	2.7	271	伊豆諸島南部周辺海域(46)
4月	77	19	4.0	417	伊豆諸島北部周辺海域、潮岬沖(47)
5月	198	40	4.9	228	伊豆諸島北部周辺海域(55)
6月	248	61	4.1	169	伊豆諸島北部周辺海域(48)
7月	165	31	5.3	212	伊豆諸島北部周辺海域(48)
8月	182	20	4.1	265	伊豆諸島北部周辺海域、御前埼沖(56)
9月	150	41	3.7	176	伊豆諸島北部周辺海域、御前埼沖(56)
10月	115	35	3.3	298	伊豆諸島北部周辺海域、御前埼沖(52)
11月	52	25	2.1	494	伊豆諸島北部周辺海域、御前埼沖(54)
12月	20	14	1.4	639	伊豆諸島北部周辺海域、御前埼沖(51)
R3年計	1,143	299	3.8	250	
R2年計	858	372	2.3	518	
5か年平均	997	327	3.1	398	平成28～令和2年の平均

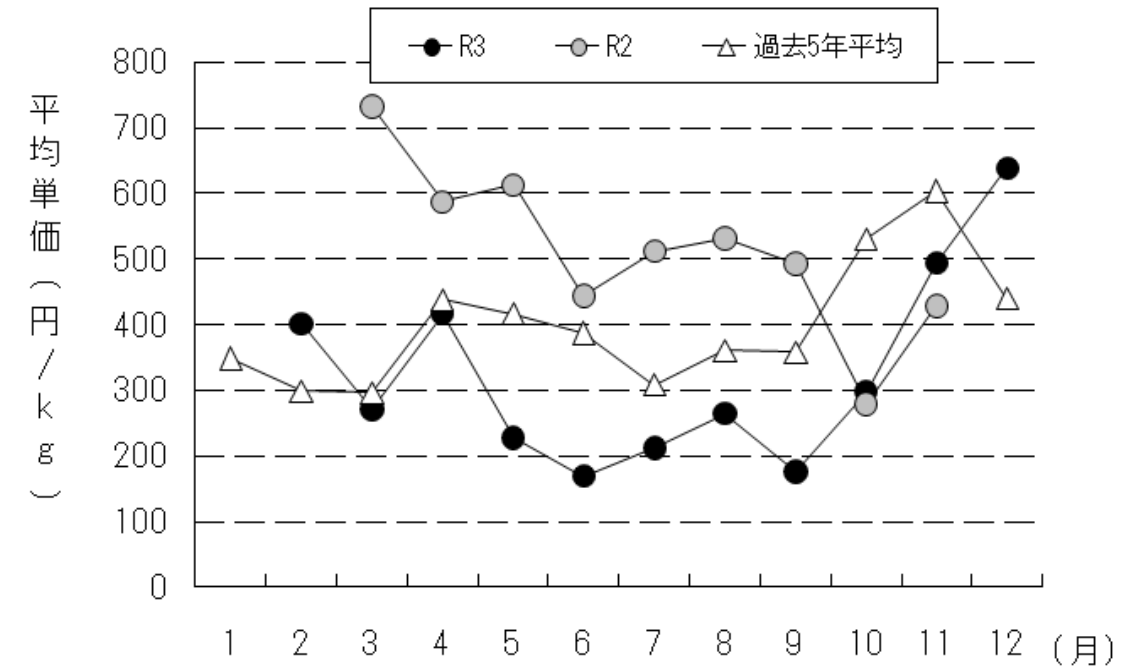


図9 近海・沿岸竿釣りカツオの平均単価の推移

[まき網(いわし類)]

1 マイワシ

令和3年における伊東港の総水揚量は194トンで、前年(1,168トン)の16.6%、平年(1,013トン)の19.2%であった。最も水揚量が多かったのは2月で155トンであった。

沼津港の総水揚量は4,490トンで、前年(4,844トン)の92.7%、平年*(4,086トン)の1.1倍であった。最も水揚量が多かったのは3月で2,338トンであった。

小川港の総水揚量は1,335トンで、前年(1,392トン)の95.9%、平年(1,642トン)の81.3%であった。最も水揚量が多かったのは3月で603トンであった。

静浦漁港では水揚がなかった(前年0.8トン、平年0.3トン)。

2 カタクチイワシ

令和3年における伊東港の水揚量は2.9トンで、平年(55トン)の5.3%であった(前年水揚げなし)。静浦漁港の総水揚量は0.1トンで、前年(3.1トン)の3.3%、平年(2.2トン)の4.5%であった。

沼津港の総水揚量は169トンで、前年(183トン)の92.1%、平年(129トン)の1.3倍であった。

*平年：過去5カ年(平成28～令和2年)平均

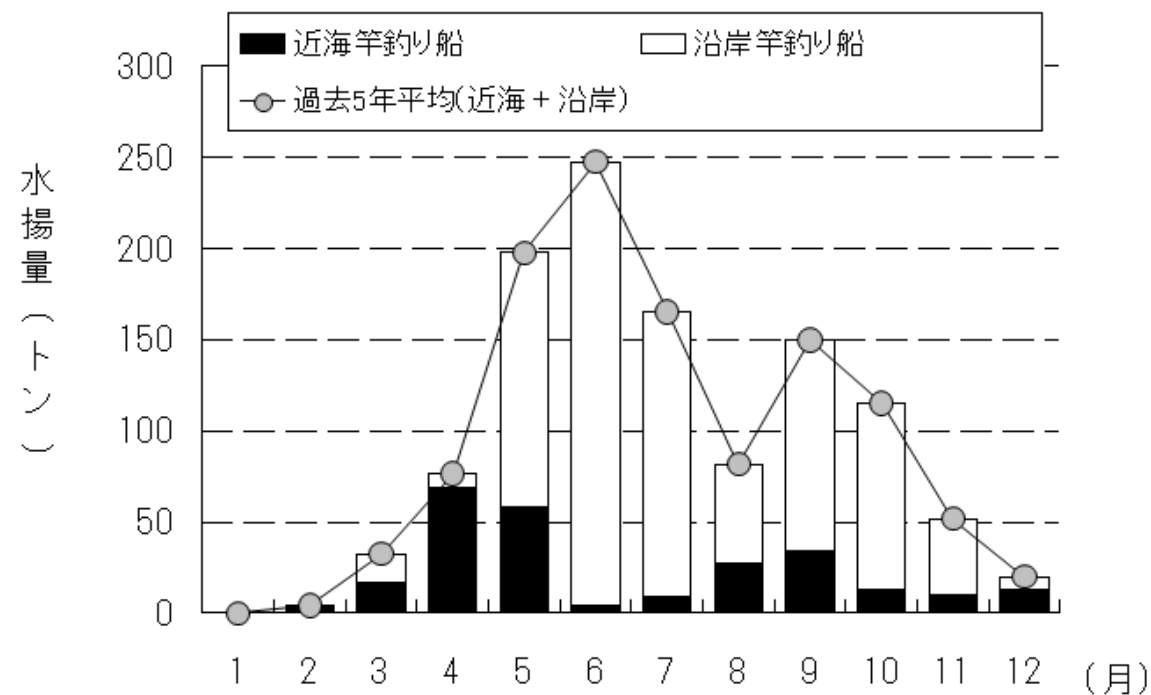


図8 近海・沿岸竿釣りカツオの月別水揚量の推移

【シラス船曳網】

令和3年度の主要6港(用宗、吉田、御前崎、福田、舞阪、新居)における総水揚量は5,510トンで、前年同期(5,545トン)の99.4%、平年*同期(5,530トン)の99.6%であった。また、駿河湾側(用宗、吉田)では1,692トンで、前年同期(1,991トン)の85.0%、平年同期(1,718トン)の98.5%、遠州灘側(御前崎、福田、舞阪、新居)では3,818トンで、前年同期(3,554トン)の1.1倍、平年同期(3,812トン)の1.0倍であった。総水揚金額は3,629,060千円で、前年同期(4,034,785千円)の89.9%、平年同期(4,075,777千円)の89.0%であった。平均単価は659円/kgで、前年同期(728円/kg)の90.5%、平年同期(737円/kg)の89.4%であった。

3月は378トン、4月は1,701トンと増加し、今期最大となった。5月は513トン、6月は486トンと減少した。その後、7月は678トンとやや増加したが、8月は124トンと大きく減少した。9月は764トンと再び増加し、その後、10月は454トン、11月は219トン、12月は167トン、1月は27トンと徐々に減少した。

3月は前年を下回り、平年を上回った(前年比87.9%、平年比1.2倍)。4月は前年、平年ともに上回った(4.2倍、1.7倍)。5月は前年、平年ともに下回った(72.6%、34.1%)。6月は前年を下回り、平年並であった(42.2%、95.0%)。7月は前年並で、平年を上回った(99.7%、1.2倍)。8月は前年、平年ともに下回った(10.6%、28.9%)。9月は前年、平年ともに上回った(2.3倍、2.3倍)。10月は前年を上回り、平年並であった(1.3倍、96.3%)。11月は前年を上回り、平年を下回った(1.2倍、76.5%)。12月は前年、平年ともに上回った(1.4倍、1.8倍)。1月は前年を上回り、平年を下回った(1.3倍、59.4%)(図10)。

シラスの魚種別の漁況は、カタクチイワシのシラスが漁期を通じて漁獲され、最も水揚量が多かったのは、4月(1,134トン)であった。マイワシのシラスは3~5月、12~翌1月に漁獲され、最も水揚量が多かった月は4月(567トン)で、最も水揚割合が多かった月も同じく3月(33.3%)であった。ウルメイワシのシラスは3、5、7月、12~翌1月に漁獲され、最も水揚量が多かった月は3月(26.3トン)で、最も水揚割合が多かった月も同じく3月(6.9%)であった(図11)。近年、親のマイワシ資源は増加しており、マイワシのシラスの割合が高い年が見られている(図12)。

*平年：過去5カ年(平成28~令和2年)平均

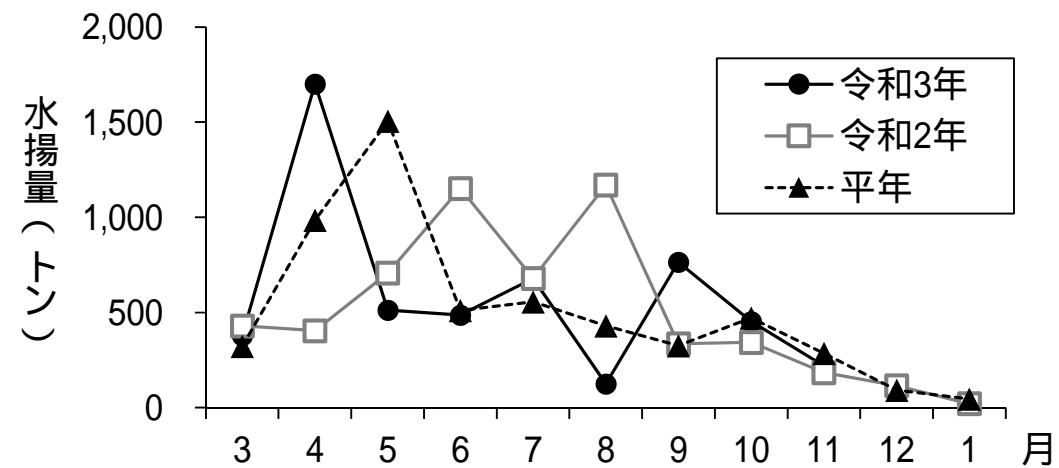


図10 令和3年漁期 主要6港 シラスの水揚量の推移

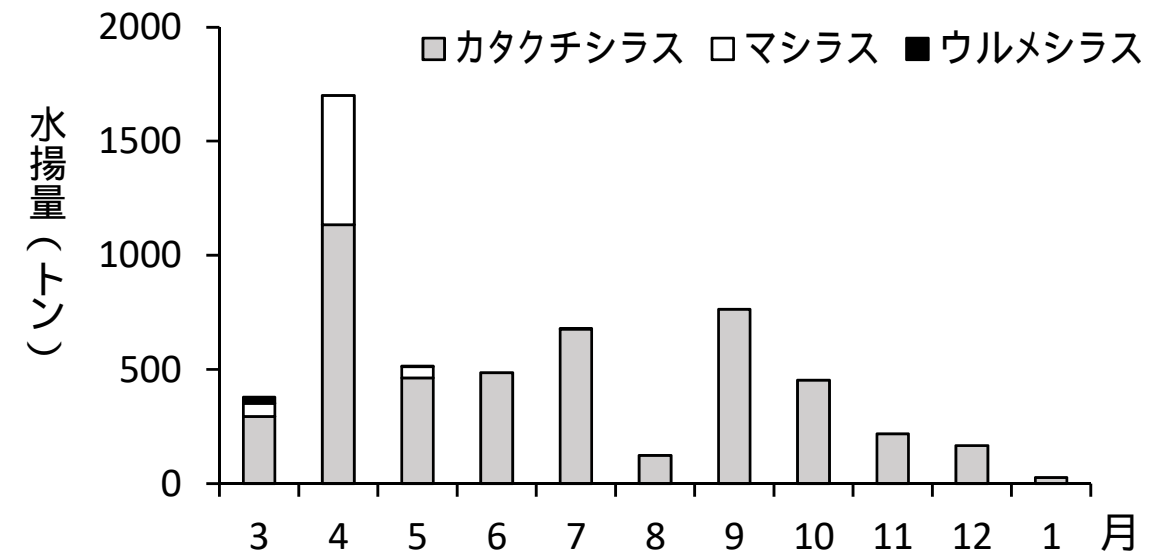


図11 令和3年漁期 主要6港 シラスの魚種別水揚量の推移

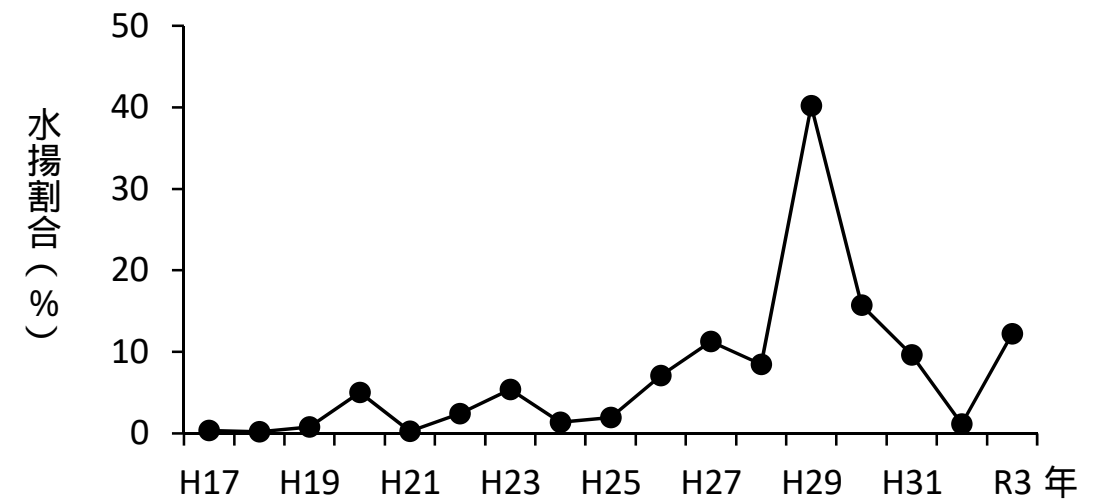


図12 マイワシのシラスの水揚割合の推移

[定 置 網]

令和3年の伊豆半島東岸大型定置網7か統（伊豆山、古網、川奈、富戸、赤沢、北川、谷津）の水揚量は3,195 トンで、前年水揚量3,235 トンの99%、平年値（昭和57年～令和2年平均）3,960 トンの81%であった。月別漁獲量では2、3、5、6、11、12月は前年を上回り、8月は前年並み、1、4、7、9、10月は前年を下回った（図13）。

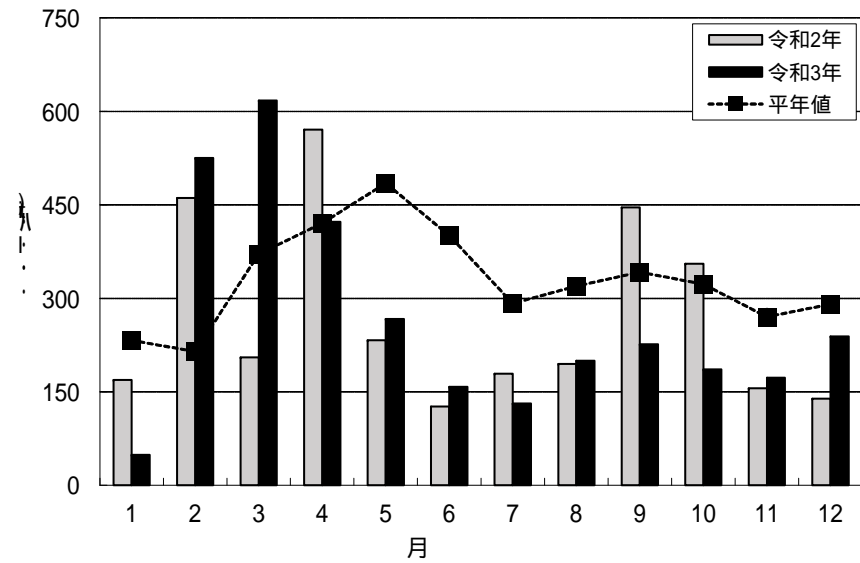


図13 月別水揚量の推移

漁場別水揚量は、伊豆山、古網漁場は前年を上回り、富戸、赤沢、谷津漁場は前年並み、川奈、北川漁場は前年を下回った。水揚量の多かった漁場は、順に古網（マイワシ、さば類、カタクチイワシ主体）、伊豆山（さば類、マイワシ、カタクチイワシ主体）、川奈（マイワシ、さば類、スルメイカ主体）漁場であった（図14）。なお、富戸漁場は9月～10月中旬まで休業中であった。

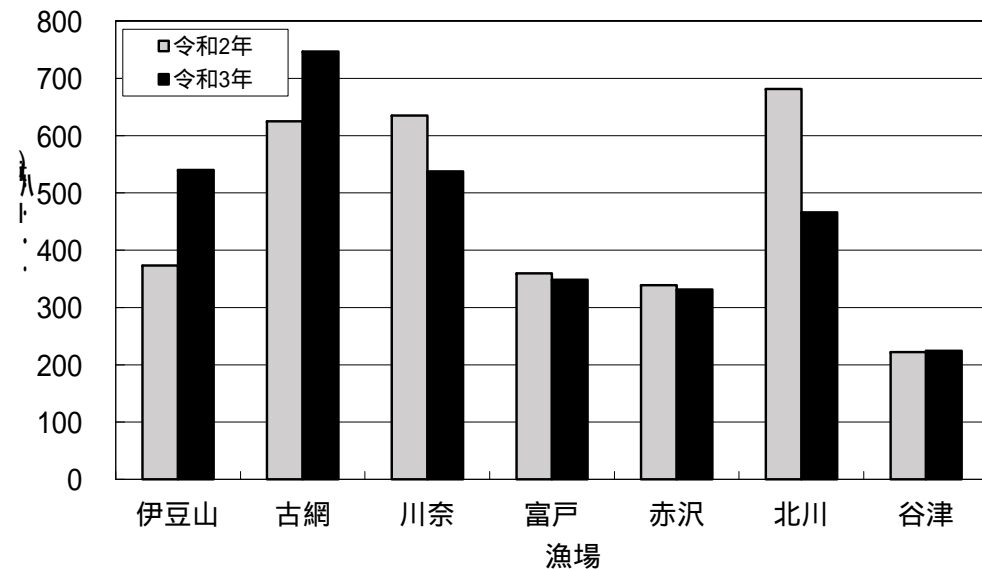


図14 漁場別水揚量

多獲された魚種（上位10種）の水揚量は表4のとおりで、マイワシ、カタクチイワシは前年を上回り、さば類、スルメイカ、マルソウダ、アカカマスは前年並み、ブリ、マアジ、ヤマトカマス、イサキは前年を下回った。

さば類は1,040 トン、前年比93%、平年比98%で2、4、5、8、9月に水揚量が多かった（年間平均水揚量を上回った）。さば類のうち、マサバは344.4 トンで、前年比3.2倍、平年比2.9倍、ゴマサバは666.6 トンで、前年比80%、平年比73%、さばっこ（小型当歳魚銘柄）は28.8 トンで、前年比17%、平年比40%であった。

マイワシは872.0 トンで、前年比1.3倍、平年比2.5倍であった。2、3月に水揚量が多く、中羽～大羽主体であった。

ブリは186.7 トン、前年比56%、平年比68%で4、5月に水揚量が多かった。銘柄わらさ、ぶり主体で、わらさは73.1 トンで前年比39%、平年比69%、ぶりは91.9 トンで前年比1.0倍、平年比84%であった。

スルメイカは185.5 トン、前年比1.0倍、平年比92%で、3、4、5、12月に水揚量が多かった。マルソウダは153.8 トン、前年比90%、平年比61%で、8、9、10、12月に水揚量が多かった。

表4 多獲された魚種の水揚量

魚種	水揚量 (トン)	前年比	平年比
さば類	1,039.8	0.93	0.98
マイワシ	872.0	1.31	2.50
ブリ	186.7	0.56	0.68
スルメイカ	185.5	1.02	0.92
マルソウダ	153.8	0.90	0.61
マアジ	91.8	0.54	2.90
カタクチイワシ	90.1	1.54	0.24
ヤマトカマス	64.5	0.84	0.83
イサキ	51.6	0.69	0.90
アカカマス	46.9	0.98	1.66

静岡県水産・海洋技術研究所のホームページ

パソコンからは..... <https://fish-exp.pref.shizuoka.jp/>

携帯電話からは..... <https://fish-exp.pref.shizuoka.jp/mobile/>

右のQRコードをご利用ください。人工衛星 NOAA の海面水温分布画像と関東・東海海況速報を見ることができます。

